

《令和8年度 第2号》

“コノホシ”栽培情報




コ・ノ・ホ・シ

地球温暖化により始まった研究、その期間約10年。  
 研究現場にはこの地球(ホシ)のことを想い、汗を流す人がいた。  
 地球(ホシ)と米の関係を思い、研究に協力する農家の方がいた。  
 空と、土(大地)と、金色に輝く稲穂。  
 このお米は、兵庫県の人々が地球(ホシ)のことを想いながらいただく。  
 このホシで生まれた「米」を、賑々と引き継ぐために。

発行日 令和8年6月  
 発行 JA兵庫みらい  
 監修 加西農業改良普及センター

今回は中干しとその後の管理についてお知らせします。

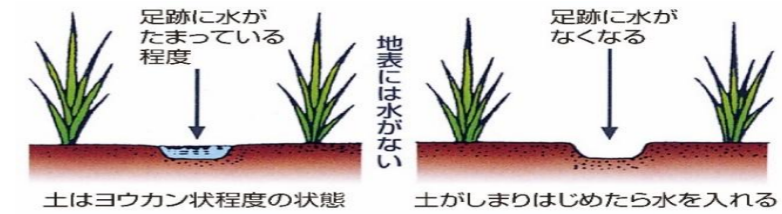
1. 中干しと溝切り ~生育後期の水管理に向けての重要な作業~

	中干し	溝切り
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>過剰な分げつ(無効分げつ)の発生を抑制する。</u></li> <li>・土中への酸素供給と、土中の有害ガスの放出が促され、根の活性が高まる。</li> <li>・田面が適度に締まり、計画的に収穫作業ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかな入排水ができる。</li> <li>・秋の長雨時には停滞水をスムーズに排水できる。</li> <li>・収穫前の遅めの落水や機械収穫の条件づくりができる。</li> <li>・開花期や収穫前に乾燥した場合、「走り水」により登熟向上を促す。</li> </ul>
開始時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫時目標穂数の80%の茎数(分げつ)になったら開始する。1株当たりの目標穂数を23本とすると、中干し開始時の茎数の目安は、株当たり18本となります。</li> <li>・コノホシでは田植え後25日頃が目安。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中干し開始後、土壌が少し硬くなったら行う。</li> </ul>  <p>乗用型、田植え機装着型の溝切り機</p>
方法・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田面に小さなひびが入り、足跡が軽くつく程度まで干す。</li> <li>・砂質田や作土層が浅い場合は、やや小さいひびが入るまで干す。</li> <li>・湿田や作土層が深い場合は、大きなひびが入るまで干す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溝の間隔は8~10条おき、溝の深さは10cm以上を確保する。</li> <li>・溝は連結し、溝の末端は確実に排水口(落とし口)につなぐ。</li> </ul>
適期・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期<sup>※1</sup>の30日前(7月10日頃)には終える。</li> <li>・実施期間は7~14日が目安。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溝は登熟期に走り水ができるなど、収穫まで有効に利用できる。</li> </ul>

※1 出穂期：全茎(穂)数の40~50%が出穂した日。

2. 中干し後の管理

中干し後は、まず走り水を行い、根の発生促進や健全化に努めましょう。  
 (注) 根を水に慣らす感覚で、一気に水を溜めない。  
 幼穂形成期以降は、田面を乾かさないように間断灌水<sup>※2</sup>または飽水管理<sup>※3</sup>を行い、酸素の供給を行うことで根をしっかりと育てましょう。  
 また、出穂期前後14日間は、湛水管理を行ってください。



※2 間断灌水：入水し、自然落水後に再び入水を行う水管理(基本は3日間水を溜めて、2日間水を落とす)。  
 ※3 飽水管理：土は乾かさずによくかん状で、足跡に水が溜まる程度で地表には水がない状態の水管理。

3. 斑点米カメムシ類の対策について

ほ場や周辺の草刈りを7月20日まで(出穂2週間前まで)には終わらせましょう。「コノホシ」の出穂期に草刈りが重なると、住みかを追われたカメムシ類の飛び込みによる斑点米被害が多くなります。  
 また、周辺で「山田錦」や「ヒノヒカリ」などの晩生品種を作付している場合、「コノホシ」のような早生品種でイネカメムシによる不稔被害や斑点米被害が発生するおそれがあります。不稔被害や斑点米被害を防ぐため、栽培暦に準じた出穂期前後の2回防除を徹底してください。穂揃期から乳熟期にかけて粒剤を施用する場合は、防除効果が得られるまでに日数がかかるので早めに散布を行ってください。

斑点米カメムシ類防除剤



スタークル粒剤 3kg/10a  
 スタークル豆つぶ 250g/10a  
 フジワラップ粒剤 4kg/10a

4. 雑草について

雑草の発生は減収につながります。中干しの頃に雑草が発生した場合は、中後期除草剤で対応しましょう。

【問い合わせ先】 加西営農生活センター 0790-47-1286  
 小野営農生活センター 0794-63-6905  
 三木営農生活センター 0794-82-6150